

協議会議事録

日 時	平成 27 年 12 月 17 日（木）13：00～14：10
場 所	雫石町中央公民館
件 名	第 1 回大松倉山南部地域地熱調査協議会
出席者	協議会関係者：（別紙 1）のとおり、傍聴者 22 名、報道関係者 4 名
配布資料	第 1 回 大松倉山南部地域地熱調査協議会資料（33 ページ）（資料 1）

司会進行：雫石町環境対策課小田課長

協議会の進め方および注意事項について説明

- ・協議会資料、議事録につきましては、協議会終了後、準備が整い次第、町役場の環境対策課にて閲覧をさせていただきます
(傍聴者へのお願い)
- ・協議会様子の撮影、録音はお控えください
- ・議事進行上、傍聴者の皆さまからのご質問は控えさせていただきます

議事次第

1. 雫石町挨拶（深谷政光町長）
2. 協議会主旨のご説明（小田課長）
3. 協議会構成について（小田課長）
4. 地熱調査計画のご説明（事務局）
 - 4-1 地熱発電・調査の概要：DVD 視聴 3 分含む
 - 4-2 調査地域の地熱資源の有望性について
 - 4-3 次年度調査計画について
5. 質疑応答

1. 雫石町挨拶（深谷政光町長）

本日、第 1 回目の協議会を開くことになったが、本案件は 1 年半くらい前から、調査の可能性について相談を受けていた。発電所建設の実行にうつせるかどうかは調査結果にかかっている。

当雫石町は約 11 万 kW の再生エネルギーの供給力を持っており、全国的にも代表する地域である。葛根田地熱発電所、水力発電所 2 基、太陽光、バイオマスなど多様な自然エネルギーを活用している。今回の可能性を秘めて本地域の地熱調査について、関係する皆様にお集まり頂きながら、当協議会を運営しながら進めていきたい。

東日本大震災という大変な国難より 4 年以上が経った。福島原発などの問題があり、国内のエネルギー政策が変わってきていると同時に変わらなければならない。国も再生可能エネルギーについては力を入れている。無理をしないで環境に配慮しながら、時間をかけながら、確実に可能性を調査していくことになる。ご理解を頂きながら、この協議会が内容のあるものになること期待している。

2. 協議会主旨のご説明（小田課長）

大松倉山南部地域に賦存する地熱エネルギーの活用を目指します。

地熱エネルギーの活用により、環境にやさしいエネルギーを創出し、CO₂ を削減します。

地域の活性化により、地域貢献をします。

地元の皆さま方からご理解を得ながら計画を進めて参ります。

3. 協議会構成について（小田課長）

協議会関係者をご紹介 ⇒ 出席者名簿を参照

4. 地熱調査計画のご説明（事務局）

東日本旅客鉄道株式会社、清水建設株式会社、日本電設工業株式会社、日本重化学工業の4社共同で進めて参ります。

再生可能エネルギーの導入により、CO₂の少ない環境にやさしいエネルギーを創出すること、それを通じて地域貢献をしていきたいと考えております。地域貢献の具体策については、今後、協議会を通して検討をさせて頂きたいと考えております。

長期間にわたって進めていくこととなりますが、どうぞよろしくお願い致します。

以下、協議会資料にそって説明 ⇒ 協議会資料を参照

（口頭による補足説明）

スライド7：地熱調査は段階的な調査であります。今回計画は、「1.地表調査」とあわせて、環境事前調査や温泉モニタリング調査等を検討しております。

また、地域協議会は継続して実施して参ります。

スライド11：計画している大松倉山南部地域のほとんどが国有林、一部が西山牧野農業協同組合様の所有地であります。

スライド12：このエリアを選定したのか理由を説明します。NEDO（国）の促進調査が、過去行われており、調査結果より、「①本エリアの北側に東西方向の断層が複数推定されている」こと、「②本エリアの北側に向けて温度分布が高い」こと、「③本エリアには大松倉沢温泉が湧出している」こと、「④本エリアの中部～北部に地熱活動に伴って生成される変質鉱物が分布している、特に、大松倉沢温泉周辺には、高温の熱水活動に伴ってできるパイロフィライト帯が分布している」ことの結果より、図の斜線部分が有望地域として評価されていることから、本エリアを選定しました。

スライド13：過去の調査より、本地域にキャップロック（不透水層）があり、IT-5の掘削調査の結果より、地下1,000m程のところに、地熱貯留層があるのではないかとこの徴候が結果として得られております。

5. 質疑応答（敬称略）

Q.（由井）発電出力規模により環境アセス（本アセス）になるか自主アセスになるか決まってくるが、調査結果によるが出力はまだ決めていないか？

A. 過去の調査結果による数値は出ておりますが、今後どのくらいの資源量があるのかについて調査を行っていききたいと考えております。

Q.（由井）有望地域が国立公園の第1種特別地域の近い位置にかかっているが傾斜掘削を行うのか？また、NEDOで過去掘削した場所で掘削するのか？

A. 調査結果より、検討していきます。

Q.（由井）松川地熱発電所付近のブナの幹が白い。発電所の冷却塔から水蒸気が大気に放出した影響（硫黄成分）により、ブナの幹に付着するコケが生えられずに白いのかもしれない。今回は大気の調査をしないのか？

A. 今回計画はしてませんが、噴気試験の前に調査を計画します。

Q. (土井) 地熱有望地域にある東西性断層の西部延長を確認することが本地域の資源量検討に重要と考えている。そのためには電磁探査の測点が西部(西側)において少ないのではないかと思うが増やす予定はないか?

A. 西側は重要と考えておりますが、電磁探査の観測点については、国立公園の関係もありますので、次回の協議会までに検討させていただきます。

Q. (渋谷) 地形・地質の環境影響については、発電所の建設場所の検討が必要になるが、どのように考えているか?

A. 現時点で発電建設できる段階ではありません。今回の地形・地質調査は、掘削調査の検討をすることを観点に計画しております。今後、発電所建設の際は改めて調査計画を検討させていただきます。

Q. (河村) 「自然との触れ合い活動の場」の調査地域に、三ツ石への登山道になっている奥産道路追加してほしい。また、景観においても同様の理由で主要展望地に加えて欲しい。

A. 今後、調査計画に反映させていただきます。

Q. (中山) 温泉のモニタリング調査で、雫石町が所有する網張元湯の井戸の坑口圧力のモニタリングをしてほしい。

A. 次回協議会までに調査方法等の検討を行い報告させていただきます。

Q. (広野) 今回説明のあった調査を来年度に全部やるのか?

A. 1年で出来るものは行っていきたいと考えておりますが、継続して調査していくものもあります。調査内容を整理させていただきます。調査は慎重に行っていきます。

Q. (由井) 当地域にはかつてブナ林があったが、伐採したり二次林になったりして現在は少なくなった。ブナの伐採は通達で規制があると記憶しているが、敷地造成のエリアにブナの自然木があった場合、伐採できるのか? 環境保全上の観点でも重要になるので森林管理署にお聞きしたい。

A. (岩井) 当地域は国有林がほとんどであるが、国有林の中には保安林もありそれぞれ規制があるので、それらの規制がクリアできれば伐採できる。

連絡事項

次回の協議会の開催周知につきましては、雫石町広報及び雫石町 HP に情報を掲載させていただきます。